

日本法育学会 第6回全国研究大会

テーマ『監視社会における主体性』

先進各国は、利便性と迅速な情報収集とその活用、多様な快楽を求めて猛スピードでデジタル化を推進している。

リアルとフェイク、リアルとバーチャルの境界線が曖昧になりつつある現代、人々は人間の行動や情報に対して漠然とした不安感をもち、監視カメラや個人認証機器、AIによる事象分析等、様々な電子機器に依存している。より高度に詳細に「監視」される社会に危険性はないのだろうか。

本大会では、監視・統制が強まる社会で、危機管理の現状を踏まえ、人権という概念をどう捉え、個人情報をもどのように扱い、人間としての主体性をどう維持したらよいかを多角的視点から検討してみたい。

開催日時 2023年9月30日（土） 13:20～16:30

会場 日本大学本部大講堂

【大会プログラム】

13:20～13:30 **開会あいさつ** 日本法育学会理事長 平野 節子

13:30～14:30 **基調講演**
「危機管理学と監視社会」 日本大学危機管理学部学部長 福田 充

(10分間の休憩)

14:40～16:20 **研究発表**

「警察の情報収集活動—ドイツ警察を素材として」 京都女子大学名誉教授 福井 厚

「サイバー犯罪の境界線」 千葉大学大学院社会科学研究院准教授 西貝 吉晃

「監視社会と『道徳化する社会』—最小社会と最大社会の捻じれ」 東京大学大学院教授 北田 暁大

16:20～16:30 **閉会あいさつ** 弁護士 船山 泰範

※大会終了後、書籍化を予定しております。